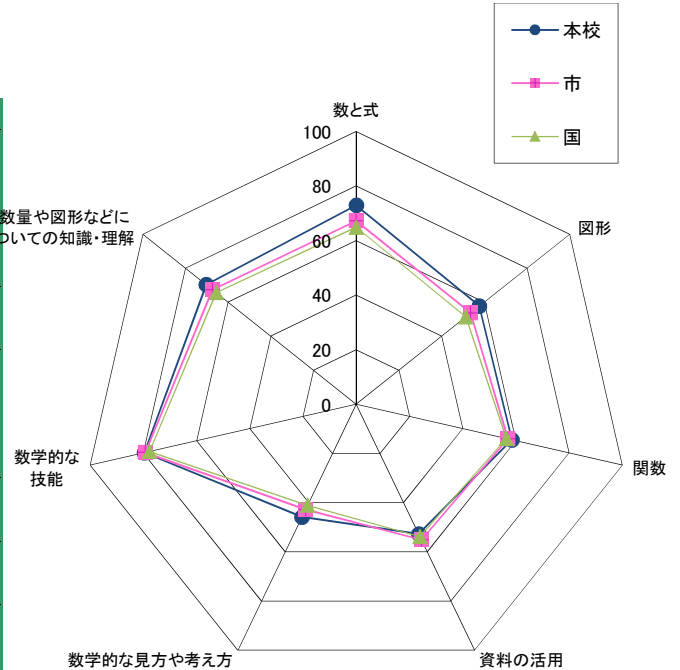


宇都宮市立豊郷中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	72.9	67.2	64.9
	図形	57.7	53.6	51.4
	関数	58.5	57.0	56.4
	資料の活用	52.7	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	45.8	42.8	41.1
	数学的な技能	79.6	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	70.3	67.4	65.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は全国平均を8ポイント上回っている。 ○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題で、全国平均と比べて15.2ポイント上回っている。	・基本的な計算の技能は身に付いているが、より速く正確に計算できるように、反復練習の機会を設ける。 ・言葉の意味などの知識が不十分なため、間違えてしまうことがあるので、小テストなどを利用して数学に関する知識の定着を図っていく。
図形	○平均正答率は全国平均を6.3ポイント上回っている。 ○平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明する問題では、全国平均を11.7ポイント上回っている。 ●ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する問題において、全国平均を1.1ポイント下回っている。	・条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現できるようにしていく。 ・図形に関する知識・理解については、しっかり身に付けている生徒が多い。今後はさらに筋道を立てて説明する力を高めるため、言語活動をより多く取り入れていく。
関数	○平均正答率は全国平均を2.1ポイント上回っている。 ○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では、全国平均を3.7ポイント上回っている。 ●関数の意味を理解しているか問う問題では、全国平均を0.4ポイント下回っている。	・表・グラフ・式との関連性を意識した授業を取り入れ、それぞれの表し方のよさを感じられるようにするとともに、問題にあった表し方を活用できる力を身に付けられるようにする。 ・各学年の関数領域の導入の時間には、2つの数量の関係が関数である場合とそうでない場合を明示し、関数の意味について確認できる時間を設ける。 ・応用問題を取り入れ、自分の言葉で説明する力を付けるために、言語活動を多く取り入れる。
資料の活用	○相対度数の必要性和意味を問う問題では、全国平均を6.7ポイント上回っている。 ○ヒストグラムからある階級の度数を読み取る問題では全国平均を4.4ポイント上回っている。 ●平均正答率は全国平均を1.1ポイント下回っている。 ●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題は全国平均を4.8ポイント下回っている。	・1つの資料を表や棒グラフ、円グラフなどのさまざまなグラフに表すことや、それらのグラフから傾向を読み取る機会を設ける。 ・日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるような機会を設定する。 ・資料の読み取りや活用は、他教科との関連性も高いので連携を図って取り組んでいく。